



答弁

常総市への移住を促進するためにも、
きれいなまちづくりを！

首都圏50km圏内の立地と地域資源を生かし進めていく

花が少ないと感じる。市の顔であればもっときれいにしてほしい。まちづくりを進めていくうえで、市民との協働によるものは考えているか。

市長公室長

市の総合計画では、全ての施策は市民協働の下で進めていく考えが示されており、引き続き自主的な市民・団体活動への積極的な支援を行っていく。

議員

移住促進の意気込みを市長に尋ねる。

市長

移住促進は二期目のテーマである。首都圏50キロメートル圏内という立地を生かした空き家や耕作放棄地の利活用、また、情報発信の面でも道の駅の効果は絶大であるため、大きなチャンスと捉えて進めていく。

議員

当市の魅力ある地域資源を生かしたきれいなまちづくりや政策を実行し、どんな人々を呼び込んでいただきたい。



答弁

いつでも誰でも何度でもPCR検査を

医療機関の体制がネックである

新型コロナウイルス感染症対策としてPCR検査を大規模に定期的に行う必要がある。市の対応は。

保健福祉部長

7月随時議会に提案した医療体制強化支援事業費補助金で、診療所及び病院の感染予防対策に補助を行い、PCR検査を行う意欲のある医療機関へも施設整備等に係る補助を行い、検査を身近で行う制度を定めていく。

議員

感染者の4割が無症状という。これに対応するためにPCR検査を拡大しようと、世田谷区では、いつでも、誰でも、何度でも検査が受けられるようにしている。松戸市では、検査に独自の補助をしている。当市の考えは。

保健福祉部長

補助については、発生状況等を確認しながら検討していく。

保健推進課長

きぬ医師会病院では、発熱外

来センターを設けている。PCR検査センターを立ち上げるには、スタッフの確保、受付体制、場所がネックとなっているが、意気を感じてやりましようという医師もいるので、行政としては後押しをしていきたい。

議員

医師に聞いたところ、自分の病院でコロナ対策をとるのは難しいので、県で一ヶ所感染症病院を造るのがいいと言っていた。県への働きかけが必要なのではないか。

保健福祉部長

県の入院可能病院病床数は、170床用意され、軽症者受け入れ数も104部屋あり、稼働率は20%で、専門病院の設立は難しいと思われる。

議員

現在は、稼働率20%程度で安心だということなのか。本格的な第二波がきた時に、保健所つぶしをやってきた県だけに、大変危惧を感じている。教育と医療には、余裕のあるお金の使い方をしていただきたい。

議員

二期目の神達市政には、安心・安全でわくわくする魅力ある住みよいきれいなまちづくりに取り組んでほしい。若者の移住促進には現市民である私たちが市の魅力をしっかり認識・共有し、活動することが重要である。きれいなまちづくりという観点から、市で登録の245件の空き家の中で、景観を損ねる空き家の数は把握しているか。

都市計画課長

把握していない。

議員

ほとんどが景観を損ねていると思うので、引き続きしっかりと指導してほしい。市で管理している公共施設へはどのように対応しているか。

産業振興部長

日常的な清掃作業のほか、雑草の繁茂状況に応じて定期的に除草を行っている。

議員

市の顔である市役所や公園に

中村 博美 議員

堀越 道男 議員